



# 街場の教育論

著者:内田 樹

「教育には、親も文科省もメディアも要らない!?!」「教師は首尾一貫してはいけない!?!」  
「教壇の上には誰が立っていても構わない」  
「学校はどの時代であれ一度として正しく機能したことなんかない」

学校、教師、親、仕事、宗教……あらゆる教育のとらえ方がまるで変わり、「学び」の本質を見事に言い当てた、驚愕・感動の11講義!

混迷する日本を救う、現代必読書。

**文句なしにおもしろい本だ。**  
**楽しみながら教育がわかる学者の高等落語。**  
(広岡守穂氏、共同通信配信書評)

**内田センセイの本はいつでも希望の書なのである。**  
(福岡伸一氏、「読売新聞」08年12月21日)



●目次

- |                       |                   |
|-----------------------|-------------------|
| 第1講 教育論の落とし穴          | 第7講 踊れ、踊り続けよ      |
| 第2講 教育はビジネスではない       | 第8講 「いじめ」の構造      |
| 第3講 キャンパスとメンター        | 第9講 反キャリア教育論      |
| 第4講 「学位工場」とアクレディテーション | 第10講 国語教育はどうあるべきか |
| 第5講 コミュニケーションの教育      | 第11講 宗教教育は可能か     |
| 第6講 葛藤させる人            |                   |

●書評情報

「街場でフツーのオッサンがこんなスゲエ話をするわけがない」  
(養老孟司氏、「週刊文春」08年12月18日号)

●著者紹介:内田樹(うちだ・たつる)

1950年東京生まれ。東京大学仏文科卒業。東京都立大学大学院博士課程中退。神戸女学院大学文学部教授。専門はフランス現代思想、映画論、武道論。著書に『ためらいの倫理学』(角川文庫)、『寝ながら学べる構造主義』(文春新書)など多数。

判型:46判並製  
定価:1,680円(税込)  
頁数:296ページ  
発刊:2008年11月17日  
ISBN:978-4-903908-10-6  
装丁デザイン:クラフトエヴィング商會

<b>『街場の教育論』 著者:内田樹</b>	注文欄	ご注文数	冊
------------------------	-----	------	---

\* ミシマ社の本の仕入方法について (基本パターン) \*

- 直接取引(返品可) \*詳細は別途、「取引覚書」をご用意しています。
- ①掛率 : 70%
- ②納品 : 宅配便で直送します(送料はミシマ社負担)。
- ③返品 : 随時入帳可能(送料は書店様負担)。
- ④精算 : 新刊などは3ヵ月後、補充などは当月請求。  
返品は受領月の請求金額から控除、控除しきれなかった場合は、次回の請求より相殺を原則とする。
- ⑤支払 : 月末締めでご請求、翌月末までのお支払い。手数料ミシマ社負担。
- 取次ルート(返品不可)  
注文品のみ出荷、返品はできません。太洋社様経由で各取次へ搬入します。



【直取引メインです】

貴店名:

ご住所:

TEL:  
FAX:

ご担当者:

様

通信欄